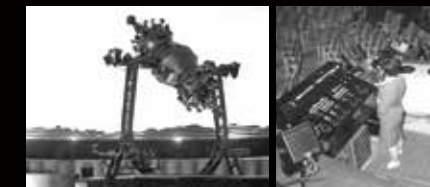


プラネタリウム生誕 100 周年記念 コニカミノルタプラネタリウムのあゆみ

1958 ノボオカ式プラネタリウムⅠ型



コニカミノルタ株式会社の前身である千代田光学精工株式会社が発明家・信岡正典氏を招聘し、国産初のプラネタリウムとして完成。阪神パークで開催された大科学博覧会で一般公開し、20万人以上を動員。その後、福岡プラネタリウムに移設された。



1959 ノボオカ式プラネタリウムS型

東京国際見本市に出展。その後、Ⅰ型が移設された阪神パークに後継として常設される。



1965 MO-6

標準6mドーム向け量産機。操作部が一体となっており、学校を中心に多く納入された。



1966 MS-10

標準10mドーム向け量産機。プラネタリウム成長期に貢献したベストセラー。2000年まで国内外に50台以上が納入された。

1973 MK-II (輸出専用機)

標準30~40ftに対応したViewlex社向けOEM機。映画「ラ・ランバ」にも登場。

1978 MS-6

標準6.5mドームに対応。ハログランプ化された恒星と年間機構により小型ながらハイスペックな機種。



1978 MS-18

MK-IVをベースに標準18mドームに対応。世界初となるコンピューターによる自動演出装置を搭載。



1989 INFINIUM alpha

「INFINIUM」の後継機として開発。コンピューターの進化に伴い大幅なシステムの小型化に成功。惑星投影機も小型化し、コンパクトな配置が可能に。



1992 INFINIUM gamma

標準10mドーム向け1球式小型機。3.5インチフロッピーディスクとMS-DOSを採用し、さらにシステムを小型化。番組制作もパソコンで可能に。

1997 INFINIUM alpha II

「INFINIUM alpha」の後継機。80コマスライドプロジェクトを搭載した多目的に使える新型惑星投影機を搭載。

1997 GEMINI STAR

光学式プラネタリウムと全天周映像システム「Digistar II」が融合した、世界初の統合型プラネタリウム。光学式が映し出す美しい星空と全天周映像システムが描き出す迫力ある全天周CG映像が合わさった、新しいドーム映像空間が誕生。



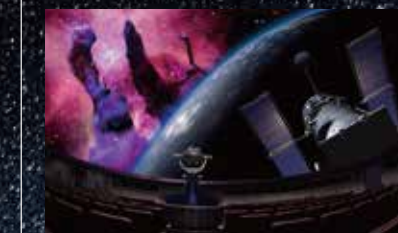
2001 MEDIAGLOBE

世界初となる単眼式フルカラーデジタル投影方式を採用し、多機能なデジタルプラネタリウムと多彩なCG投影機能を一体化。標準ドームにも納品された。



2004 INFINIUM L

「INFINIUM alpha」シリーズの後継機として開発。光ファイバー導光レンズ投影方式と、光源としてメタルハライドランプを採用。



サンシャイン 2004 スターライトドーム“満天”

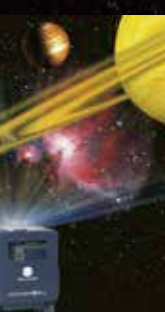
2003年に開館した「サンシャインプラネタリウム」(東京池袋)を当社直営館として復活オープン。現在も「コニカミノルタプラネタリウム 満天 in SunshineCity」として運営中。

2007 MEDIAGLOBE II

「MEDIAGLOBE」の後継機として開発。エンジンは「スーパーメディアグローブ」を踏襲。投影部と操作部が分離したセパレート型を採用し、投影部が従来に比べてコンパクトになった。

2008 SUPER MEDIAGLOBE II

4Kプロジェクトを使用し、高解像度と高コントラストを実現。国立天文台4D2Uプロジェクトのデータベース「Mitaka」を内蔵し、137億光年の宇宙の奥まででの宇宙旅行を体感するような映像が投影することが可能に。



2012 コニカミノルタプラネタリウム天空 in 東京スカイツリータウン®

東京押上にて当社直営館2館目としてオープン。



2013 GEMINI STAR IV

「INFINIUM alpha」をLED化した「INFINIUM alpha NEO」と「SUPER MEDIAGLOBE II」の統合型システムとして開発。



2017 Gemini Star Sigma

「Infinium Sigma/Cosmo Leap Sigma」と「Media Globe Sigma」の統合型プラネタリウムとして開発。

2017 Cosmo Leap Sigma

「Infinium Sigma」で培ったノウハウを踏襲しつつ、単体でも本格的な手動投影にも対応できるように、各種機能を充実させた。グッドデザイン賞を受賞し、「Infinium Sigma」と同様に、デザイン面でも高く評価された。

2019 Media Globe Sigma SE

デジタル式プラネタリウムの世界的トップメーカーであるRSA Cosmos社と経営統合。同社の「Sky Explorer」をプラットフォームに、国内市場向けに共同開発した、新時代のソリューション。宇宙・天文に関するビッグデータを、フォトリアリスティックなデジタル映像として可視化が可能に。



2019 DYNAVISON™-LED

圧倒的な没入感・臨場感を実現するLEDドームシステム。ドームスクリーンに自発光するLED素子を配列し、これまでにない革新的なドーム映像システムを構築。高輝度・広広域によって、従来の投影型投影方式では表現が難しかった、リアルな臨場感と美しい映像体験が提供可能に。※「DYNAVISON」はコニカミノルタプラネタリウム株式会社の登録商標です。



2021 コニカミノルタプラネタリウム満天NAGOYA

愛知県名古屋市に当社直営館4館目としてオープン。世界初のLEDドームシステム「DYNAVISON-LED」導入館。エンジンには「Media Globe Sigma SE」を採用し、1958年の「ノボオカ式プラネタリウムⅠ型」の完成以降、60年以上の歴史で培った技術、経験、アイデアの集大成とも言える次世代のプラネタリウムシステムを構築。

昭和

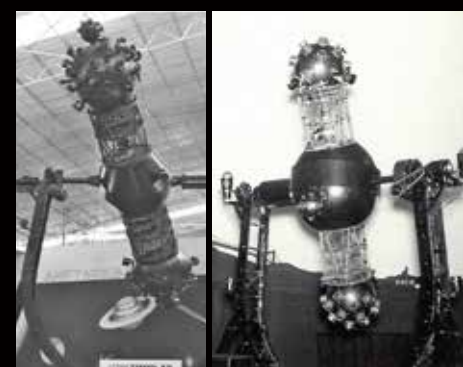
●1988.ミノルタプラネタリウム株式会社設立

●2003.商号をコニカミノルタプラネタリウム株式会社に変更

平成

●2017.「福岡科学館ドームシアター」の指定管理運営を開始

令和



納入実績は無いが、見本市や博覧会に出展された機種。M型は博覧会での実演投影で好評を博した。主要部分は後の機種に引き継がれた。

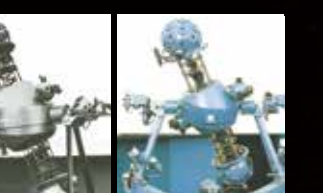
1960 ノボオカ式プラネタリウムⅢ型/M型



1960 ノボオカ式プラネタリウムMS型

標準50ftに対応したViewlex社向けOEM機。後に主要部をベースとしたMS-18、MS-15が製造されていく。

1975 MK-IV (輸出専用機)



標準8mドーム向け量産機。アメリカを中心に海外にも多く納入された。

1971 MS-8



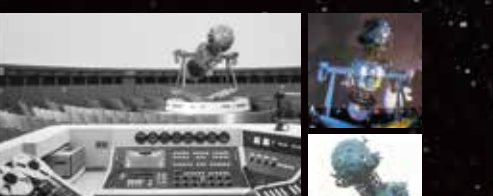
主要部分の設計はMS-10と同じだが、恒星ランプを大型化し、標準15mドームに対応した。後に大幅な設計変更があり、大型化した。

1969 MS-15



直径20m以上の大型傾斜ドームを視野に開発された世界初1光源1球式、レンズ投影による新世代プラネタリウム。惑星投影機を独立させ、地球を俯瞰する演出が可能であることから「宇宙型」と呼ばれた。

1985 INFINIUM



当時国内最大級である標準20mドームに対応したMSシリーズの集大成とも言える機種。

1980 MS-20

標準15mドーム向け1球式中型機。「INFINIUM alpha」を小型化しながらも、機能は限りなく継承。水平ドーム館にも納品された。

1990 INFINIUM beta



2球式でありながら別投影の惑星投影機を持つ宇宙型として登場。

1994 COSMOLEAP



「INFINIUM gamma」の後継機。制御ソフトウェアを刷新し、Windows OSを初採用。

1996 INFINIUM gamma II



「MEDIAGLOBE」のオールインワンのコンセプトを踏襲し、あらゆる面で性能向上を図った。3次元デジタルプラネタリウム機能や、紀元元年±50万年の星空をリアルに再現する機能を搭載。

2003 Super-MEDIAGLOBE

「INFINIUM L」の設計をコンパクトボディに凝縮し、小中規模館向けとして開発。同年「Digistar II」との統合型システムとして「GEMINI STAR-II」を開発。



2005 GEMINI STAR II

「INFINIUM beta」の後継機として開発。恒星仕様、惑星投影機、制御ソフトウェア等を刷新。



2006 GEMINI STAR III

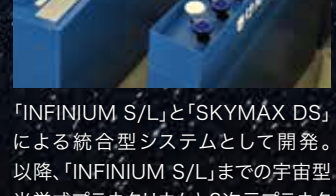
2011 MEDIAGLOBE III

「MEDIAGLOBE II」の後継機として開発。エンジンは「SUPER MEDIAGLOBE II」を踏襲。



光源に高輝度LEDを採用し、星の明るさや色調再現が大幅に向上。グッドデザイン賞など、先進的製品にふさわしいものとしてデザイン面でも高く評価された。

2015 Infinium Sigma

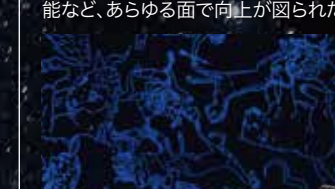


「INFINIUM S/L」と「SKYMAX DS」による統合型システムとして開発。以降、「INFINIUM S/L」までの宇宙型光学式プラネタリウムと3次元プラネタリウム機能を搭載したデジタル式プラネタリウムとの統合型システムの定義として「GEMINI STAR III」が定着。

2006 GEMINI STAR III

2015 Media Globe Sigma

8Kプロジェクトを使用し、単眼式でありながらも4.8Kドットの映像が投影可能に。エンジンは最新の観測データに基づくテクスチャやデータベース、スマートデバイスにも対応したマルチメディア機能など、あらゆる面で向上が図られた。



東京有楽町に当社直営館3館目としてオープン。「プラネタリウム」と「多目的ドームシアター」といったツインドームの他、VRアトラクション「VirtuaLink」や、オリジナルメニューを提供するカフェ「Cafe Planetaria」、ギフトショップ「Gallery Planetaria」なども備えたドームシアターコンプレックスとしてオープン。

2018 コニカミノルタプラネタリウムTOKYO



神奈川県横浜市に当社直営館5館目としてオープン。「DYNAVISON-LED」「Media Globe Sigma SE」導入館。「Cafe Planetaria」や「Gallery Planetaria」も併設。

2022 コニカミノルタプラネタリアYOKOHAMA

ネットワークやクラウドと連携した次世代型ドーム映像サービスプラットフォームを構築。



2020 Connected Dome



東京有楽町に当社直営館3館目としてオープン。「プラネタリウム」と「多目的ドームシアター」といったツインドームの他、VRアトラクション「VirtuaLink」や、オリジナルメニューを提供するカフェ「Cafe Planetaria」、ギフトショップ「Gallery Planetaria」なども備えたドームシアターコンプレックスとしてオープン。

2018 コニカミノルタプラネタリアTOKYO